

## はじめに

お茶の水女子大学文教育学部人文科学科地理学コースでは、3年次の必修科目「地理学フィールドワークA」において野外調査の実習を課しております。この授業は、フィールドワークの基本を習得することを目的としており、毎年、特定の地域を選び、夏季に4泊5日の予定で実施しています。学生たちは、事前に文献講読や統計資料の分析といった作業を通じて各自で関心のあるテーマを設定し、夏季に現地において観察や体験学習、聞き取りなどの調査を行います。

2008年度の野外調査は、長崎県長崎市とその周辺市町を対象地域に、9月15日から19日までの日程で実施しました。参加者は、文教育学部の3年生8名（うち地理学コース所属の学生は6名）に、大学院生3名（本学大学院ジェンダー社会科学専攻地理環境学コース所属）と引率教員2名（宮澤 仁、水野 勲）を合わせた13名でした。初日は午後から皆で長崎市街を観察し、2日目から各自のテーマで調査を行いました。期間中は、台風の影響が心配されましたが、日中の天気は小雨程度で、ほぼ予定通り調査を行うことが出来ました。

今回の調査では、共通のテーマとして「長崎市にみる地方都市が抱える諸問題と再生への取り組み」を設定し、少子高齢化や情報化、国際化等、社会経済が変化するなかで日本の地方都市が直面する諸問題について、現地でのフィールドワークを通してその実態をとらえ、要因を解明し、問題改善のための対策までを考えることを目標としました。学生たちが個々に設定したテーマは、防災、交通、福祉、宗教、文化財、地域開発などと多岐にわたりますが、長崎が有する独特の歴史や文化、自然条件とかかわりをもった具体的な課題を取り上げています。これらの調査から得られた情報を分析・整理し、考察を加えてまとめたものが本報告書になります。

何分、このような野外調査は初めて経験する学生が大半であり、本報告書には至らない点が多くみられると思います。ご笑覧いただき、ご意見・ご批評をいただければ幸いです。本コースでは、この野外調査をはじめとする地理学の教育を通じて、地域の課題を分析し、その対策に取り組むことのできる人材を育成・輩出することにより、社会に貢献したいと考えております。今後とも本コースの教育にご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ですが、今回の野外調査においてご協力を賜りました長崎市都市計画部をはじめ、多くの皆様に心よりお礼申し上げます。

お茶の水女子大学文教育学部  
准教授 宮澤 仁